

今週（11月25日から11月29日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、引き続きビッドサイドの資金調達ニーズが強い展開となった。出会いレートの水準は、25日(月)～28日(木)まで0.226～0.227%で推移し動意に乏しい状況が続いた。29日(金)は月末要因により、ビッドサイドの一部に調達を控える動きが見られたものの、全体のレート水準に大きな変化は見られなかった。

ターム物については、1W～3M程度での引き合いが散見された。ショートターム物では特段目立った動きは見られなかったものの、3M前後のタームでは12月、1月の会合を跨ぐ取引となることから利上げを織り込む先が増加し、前週対比でレートが上昇する展開となった。

日銀当座預金残高は、25日(月)に国債買入要因により545兆円台前半まで増加してスタートした。26日(火)以降は国債の発行要因を主因に減少傾向となり、28日(木)までに542兆円台前半まで減少した。しかし、29日(金)に財政資金の支払いを受けて、543兆円台半ばまで回復する見込みとなった。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、0.135～0.25%近辺で推移した。

SC取引の個別銘柄では、カレント近辺の銘柄に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、閑散な中、全ゾーンで概ね横ばい圏での推移となった。

29日(金)に実施された3M物入札は無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼、小売、不動産などの業態から大型発行が実施された。

市場残高については、11月中は24兆円台での推移が続いてきたが、冬季賞与や税の支払いなどを控え資金調達ニーズの高まりが見られたため、26日(火)以降は25兆円台を回復する展開となった。

発行レートについては、引き続き0.25%以上で推移しており、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

26日(火)に行われたCP等買入オペは、事前予定通り2,000億円に減額しオファーされた。結果は、按分レート0.452%、平均落札レート0.483%と、前回（4,000億円、按分0.345%、平均落札レート0.370%）比で按分、平均ともに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（％）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・％）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・％)	日銀当座預金残高 （億円）
11/25（月）	38,780.14	1.070	154.20	0.227	0.230	5,453,800
11/26（火）	38,442.00	1.060	153.70	0.228	0.152	5,436,700
11/27（水）	38,134.97	1.070	152.85	0.228	0.150	5,431,500
11/28（木）	38,349.06	1.050	151.67	0.228	0.145	5,423,100
11/29（金）	38,208.03	1.049	150.00	0.227	0.240	5,431,300

来週（12月2日から12月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
12/2 (月)	7-9月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)		11月のISM製造業景況指数 10月の米建設支出
12/3 (火)	11月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 26,000億円 12/4発行	
12/4 (水)	12月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 13,000億円 12/13借入	11月のISM非製造業景況指数 10月の米製造業新規受注・出荷・在庫 米ページブック
12/5 (木)	広島県金融経済懇談会にて中村日銀審議委員講演	30Y 9,000億円 12/6発行	10月の米貿易収支
12/6 (金)	11月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 10月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 10月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,000億円 12/9発行	11月の米雇用統計 12月のミシガン大消費者信頼感指数速報 10月の米消費者信用残高 7-9月期のユーロ圏GDP確報値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/2 (月)	▲ 100	▲ 17,000	▲ 17,100	社債買入 国債補完 成長基盤	▲ 300 4,700 ▲ 1,500		2,900	▲ 14,200	TB3M発行▲43,000償還49,000 2Y発行▲26,000償還15,500
12/3 (火)	▲ 1,000	▲ 15,000	▲ 16,000				0	▲ 16,000	
12/4 (水)	▲ 500	▲ 92,000	▲ 92,500				0	▲ 92,500	法人・消費税揚げ 年金保険料揚げ 10Y発行▲26,000 交付税借入▲13,000期日13,000
12/5 (木)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
12/6 (金)	▲ 2,000	▲ 9,000	▲ 11,000				0	▲ 11,000	30Y発行▲9,000
週 間 合 計	▲ 5,600	▲ 132,000	▲ 137,600	—	2,900	0	2,900	▲ 134,700	

12/2は日銀予想、12/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズの強い展開が見込まれ、出合いレートは0.227%近辺での推移が予想される。債券レポGC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、0.22～0.25%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、6日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、12月前半は資金調達ニーズが高まりやすいことから、発行がどの程度膨らむかが注目される。

主要なイベントは、国内では2日(月)に7-9月期の法人企業統計調査季報、6日(金)に10月の毎月勤労統計調査速報、海外では、2日(月)に11月のISM製造業景況指数、4日(水)に11月のISM非製造業景況指数、米ページブック、6日(金)に11月の米雇用統計、7-9月期のユーロ圏GDP確報値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入